ホットな福祉情報誌

はあとふる ふくしま

社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

2022
6月
No.306

2022年度シリーズ
ふくしまのみらい

夏のような青空の日。お花に野菜、みんなでいっぱい植えたよ！大きく育ってほしいなあ…！
（つばさ保育園かすみ園・二本松市）

zoom UP 特集

特集
保育所における働きやすい職場づくり
～福祉人材の確保・育成・定着に関する調査結果と保育現場の取組み～

みらふく MIRAFUKU

シリーズ［未来へつなごう“ふくしま”から］
障がい者の「学びと働く」を法人全体で支える取組み
～特定非営利活動法人 「真・善・美（しんぜんび）」～

「はあとふるふくしま」は作成経費の一部に、共同募金配分金及び特別賛助会員の寄付金を使用しています。

目の不自由な方のために「はあとふるふくしま」は音訳版および点訳版を作成しています。

zoom UP 特集

「保育所における働きやすい職場づくり」

～福祉人材の確保・育成・定着に関する調査結果と保育現場の取組み～

今月号の特集では、福島県社会福祉協議会が福島県より委託を受け実施した「令和３年度　福祉人材の確保・育成・定着に関する調査」と事例を手がかりに、「保育所における働きやすい職場づくり」について考えていきます。

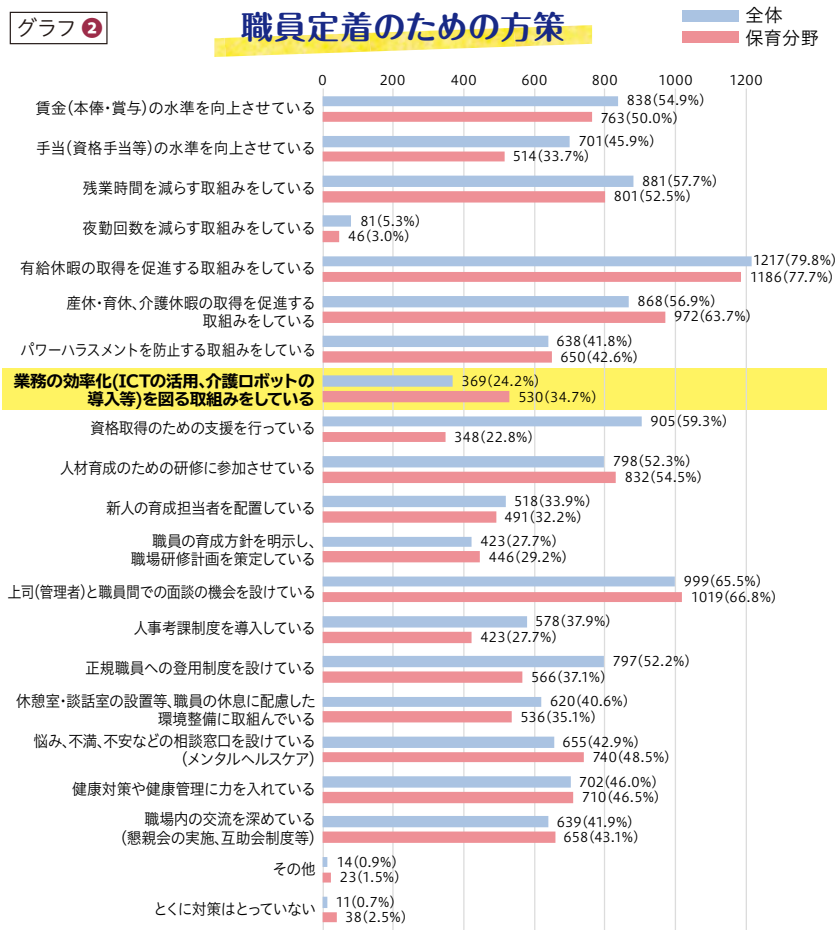
生涯働ける魅力ある職場づくり

２０２０年12月、厚生労働省が発表した「新子育て安心プラン」等に基づき、県内でも待機児童の解消を目指し保育所数が増えています。そうした背景から保育士の需要が高まっているにも関わらず現場では、早期離職や資格は取得したものの保育の仕事に就いていない潜在保育士など、保育士不足という課題を抱えています。

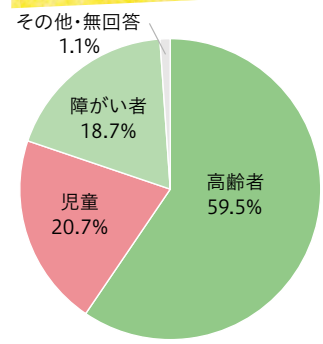
福島県社会福祉協議会では２０２１年11月、県内の福祉施設・事業所における人材の確保・育成・定着に関する現状を把握し、課題を明らかにすることで、より効果的な対策等を進めることができるよう調査を実施しました。

本調査では、県内１５５５の福祉施設及び事業所から回答をいただきました。種別の内訳グラフ❶は、高齢者関係59・5％、障がい者関係18・7％、児童関係20・7％で、児童関係のうち保育所（園）については２０２ヶ所から回答がありました。「職員定着のための方策」を複数回答で尋ねた結果はグラフ❷のとおりですが、なかでも目を引いたのが、「業務の効率化（ＩＣＴ※の活用、介護ロボットの導入等）を図る取組みをしている」です。保育分野が34・7％と、全体の24・2％を大きく上回っています。回答の多い方策は、「有給休暇の取得を促進する取組みをしている」（全体79・8％、保育分野77・7％）、「上司（管理者）と職員間での面談の機会を設けている」（全体65・5％、保育分野66・8％）などとなっています。これらの結果から、職員定着に向けての取組みとしては、保育士の負担を軽減することが重要であるといえます。

グラフ❷



グラフ❶



※ Information and Communication Technologyの略。パソコンなどインターネットを用いた技術を活用してコミュニケーションを円滑にし、サービス向上などに活かしていくこと。

働く環境を整えることは保育の質の確保、向上、働きがい、定着につながる

採用した人材を育成し働きがいにつなげていく方策

本調査に回答をいただいた保育分野（保育所（園）202ヶ所）の回答結果を見てみます。

職員の過不足状況グラフ❸は、「充足している」と、「不足している」「おおいに不足している」を合わせた数字が拮抗していました。これは、全体の結果でも同様でした。

採用した人材を育成し、保育士として働くことの魅力や働きがいにつなげていく方策グラフ❹については、複数回答で「自治体や業界団体が主催する教育・研修には積極的に参加させるようにしている」（72・3％）、「事業所全体の教育・研修計画を立てている」（60・9％）、「職員に後輩の育成経験を持たせている」（49・5％）となりました。この上位3項目は、順番の入れ替わりはありますが、こちらも全体の集計結果とほぼ同様となりました。

保育者として働き続けられるビジョンと仕組みを明確に

求められる改善点としては、保育士が保育に注力できる業務の改善と並行して、キャリアアップのための仕組みを明確にすることなどが調査結果から読みとれます グラフ❺。

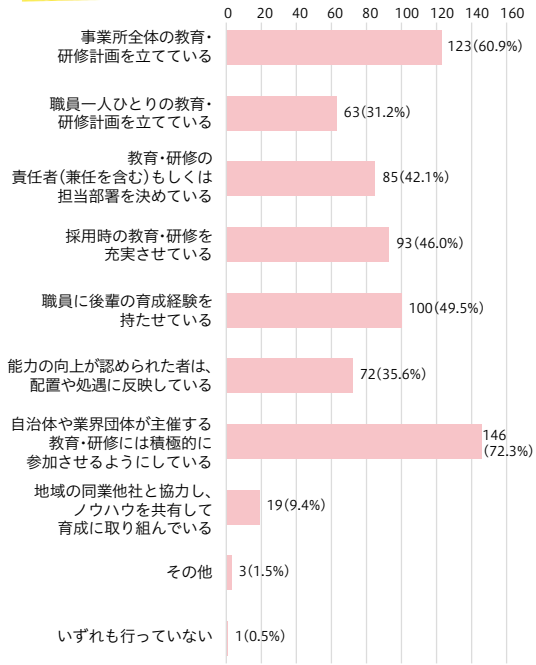
子どもと向き合う仕事が好きで、保育の仕事に就かれた方々が、生涯保育者として働き続けられるビジョンを明確にすることは、保育の質の確保、さらには向上、働きがい、定着を促進する取組みにつながります。

次ページでは、保育所（園）におけるICTを利用した業務改善や、職員のキャリアパスの仕組みの構築など先進的な取組事例を紹介します。

※写真はイメージです。

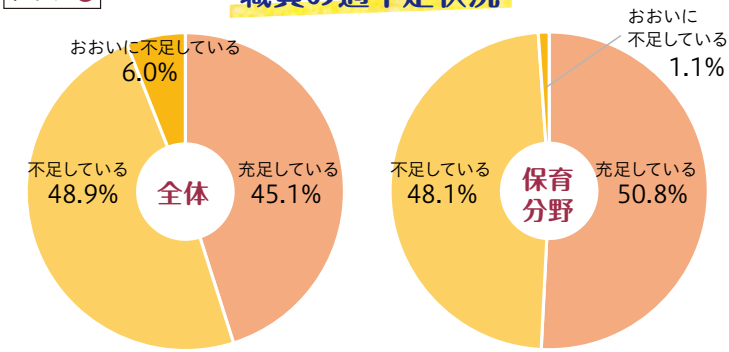
グラフ❹

人材育成のための方策（保育分野）



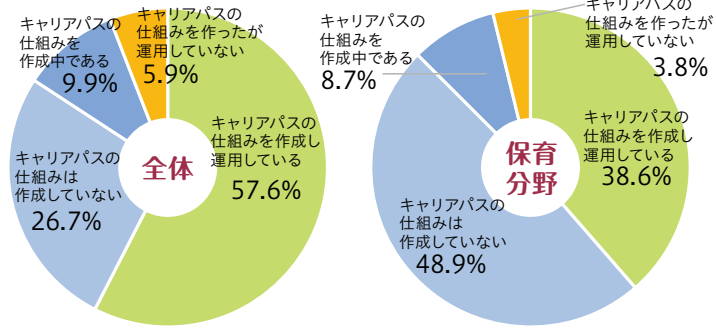
グラフ❸

職員の過不足状況



グラフ❺

職員のキャリアパスの仕組みづくり



「令和3年度　福祉人材の確保・育成・定着に関する調査」より
調査対象／県内の福祉施設・事業所（高齢者関係1,910、障がい者関係466、児童関係652）
※入所・通所・訪問による下記の直接サービス提供施設・事業所（措置施設、相談事業所・居宅介護支援事業所等は除く）
調査期間／令和3年11月10日～25日　回収率／51.4%（配布数3,028　回収数1,555）

本調査の詳しい内容はこちら
福島県福祉人材センターホームページ

事例❶ 効率化によりノンコンタクトタイムを創出 互いの保育を深め合い、高め合いながら自分らしく働く

社会福祉法人南町保育会 幼保連携型認定こども園
南町こども園（会津若松市／認定こども園）

1927年創立、2020年6月こども園に移行。定員100名、受入年齢0歳～5歳、園長1名、保育教諭24名、子育て支援員（パート）3名、栄養士1名、調理員2名、調理（パート）2名、事務員1名、用務員（パート）3名。※法人で積極的に子育て支援に取り組む「くるみん」（厚生労働省）認定を受けている。

▲南町こども園副園長　金子美智子（かねこみちこ）さん（右）、保育教諭　木村藍（きむらあい）さん（中央）、法人本部労務担当　渡部（わたなべ）みなみさん（左）

ICT化と同時に業務改善 記録・事務作業の効率化、仕事の持ち帰りもなし

社会福祉法人南町保育会は、会津若松市内に2つの認定こども園、東京都内に3つの保育園、さらに同市内で放課後児童健全育成事業、地域子育て支援事業、児童発達支援事業等の運営を行っています。

ICT化について理事長の金子恭也（かねこきょうや）さんは、「保育教諭の確保と定着のための働きやすい職場づくり、そして質のよい保育のために必要な改革でした」と振り返ります。現在、園では、ほぼ全職員が一人1台パソコンを持ち、事務作業はペーパーレス。仕事の持ち帰りはゼロだそうです。ICT化と並行して業務の見直しも行いました。運動会や保育発表会は、日々の保育を発表する場に。連絡帳は1歳クラスまでとし、2歳以上の子どもたちの園での様子は、保育支援ソフトを使い保護者の方々へネットで日々配信するようにしました。

効率化が進み、子どもと離れて事務作業ができる『ノンコンタクトタイム』を1時間から2時間取れるようになったことで、日々の保育にも変化が表れました。「子どもにしっかりと向きあえているかというジレンマから解放されました」と話すのは、勤続11年、産前・産後休業や育児休業を取得しや2人のお子さんを育てながら働く保育教諭の木村藍（きむらあい）さんです。子どもの遊びや心の揺れ動きまで見られるようになり、その様子を保護者の方に伝える時間が増え、コミュニケーションも満足感もアップしたそうです。

▲南町こども園の保育の原点が記されている「法人手帳」。2022年3月に改定版を発刊。職員全員に配布しました

法人手帳、キャリアパスノート チューター制度で保育士を支える

加えて法人本部では、以前から雰囲気の良い働きやすい職場づくりの方策として、人材育成にも力を入れています。その一つが保育理念を職員と一緒に作り上げた「法人手帳」です。保育に悩んだ時、開けばいつでも原点に立ち返ることができます。自身の保育経験に見合った力をつけていけるよう、求められる役割、資質、研修などをまとめたキャリアパスノートもあります。ノートに記した目標の達成度を見ながら年4回、園長面談も行っています。10年ほど前に導入したチューター制度は、新採用の保育教諭を中堅保育教諭が1年間指導する制度です。先輩保育教諭にとっても振り返りになり、互いに育ち合える仕組みとして保育者同士、確かな手応えを感じているそうです。

今後については、「2026年を目標に、完全週休2日制を導入します」と、渡部（わたなべ）みなみさん（法人本部労務担当）。すでにしっかり休みが取れているという木村さんは、「実現したら仕事も子育てももっと充実しそう」と話します。こうした改善の積み重ねが働きやすい職場、職員定着につながっていきます。

◀チューター制度で使われる研修ノート。新人保育教諭と先輩保育教諭がノートを通してやり取りします。金子美智子副園長によれば「新人なりに考えて保育をしていることや、日々成長している様子などが伝わって来て先輩が感動することもしばしば」とのこと

事例❷ ICT化により業務負担を改善。キャリアパスが定める目標と深い学びが保育士の喜びと成長、定着率を高める

株式会社セアリアス
つばさ保育園かすみ園（二本松市／保育所）

2021年4月1日創立。定員42名、受入年齢0歳～5歳、保育士9名、子育て支援員1名、看護師・准看護師3名、栄養士1名、調理員2名。
※若者の採用や育成に積極的な中小企業を厚生労働省が認定するユースエール認定企業。

「お昼寝も大事な保育」を可能にしたICT

「つばさ保育園かすみ園」（以下、かすみ園）は、郡山市で「つばさ保育園」（2017年小規模保育事業認定）を運営している株式会社セアリアスが、二本松市内に開園した保育所です。かすみ園では、当初から保育にICTを取り入れています。園長の國井智江美（くにいちえみ）さんは、きっかけをこう話します。「わらべうたを保育の柱に、子どもたちの小さな声に耳を傾け心穏やかに過ごせる園として、地域に貢献していくために導入した方策の一つです。職員の定着と質の向上、業務の効率化を図るという願いも込めました」。

▶自然に口ずさむことで語り継がれてきた「わらべうた」を介して、心地よい時間を過ごす子どもたち。かすみ園では、年間目標に沿ったわらべうた計画を作成しています

▲タブレットで連絡帳に目を通す園長の國井智江美（くにいちえみ）さん

1年が経過した今、國井さんは様々な手応えを感じているそうです。一つは、保育支援システムの活用により連絡帳や園だより、児童票などの文書作成、登園管理、写真の管理・販売等の事務作業や、出勤計画作成の効率化が進みました。保護者との情報共有もスムーズになり、正確性も向上したそうです。「職員同士、先輩保育士と新人保育士のコミュニケーションも良くなりました。一番は、子どもとかかわる時間が増えたことですね。『早くお昼寝をさせて事務の仕事を』ではなく、お昼寝も大事な保育。子どもたちは、保育士が歌う季節のわらべうたを聞きながらぐっすり眠り、午後もゆったりとした気持ちで過ごしています」。わらべうたを介して子どもや保護者の方との信頼が深まるにつれ、その魅力と奥深さに保育士の探求心が強まり、職員会議や園内研修も熱くなることが増えました。

園の方針を明確に伝えて採用 日々の保育を深める多様な研修

かすみ園では採用時に、職員の定着と質の向上のための工夫として、「毎月様々な研修を実施」「5年、10年と長く働ける人、意欲的な人を求めている」など、園の方針と希望を明確に伝えています。職位や責務、必要な研修、給与まで記した保育士のキャリアパスも作成しています。「年2回から3回行う個人面談は、モチベーションアップを意識しているので、職員は高みを目指して頑張ろうという気持ちになります。受けるべき研修は、勤務計画に基づきみんなで協力し合いながら進めています」。

顧問弁護士を講師に、保育は子どもの命を預かる仕事と再確認し合い、事例を検討する研修や、職員会議に公認心理師を招き新人保育士とともに「抱っこ」「夜泣き」「かんしゃく」など、心理面を学ぶ研修は、今後も継続していきたいと國井さん。日々の保育と研修で得る気づきや喜びが保育士自身の成長、ひいては定着率の高さへとつながっていきます。

▲株式会社セアリアス　つばさ保育園かすみ園のキャリアパス（部分）。目標と待遇を明確にすることでモチベーションをアップ

特定非営利活動法人 「真・善・美」

障がい者の「学びと働く」を法人全体で支える取組み

みらふく MIRAFUKU 未来へつなごう“ふくしま”から

▲「カレッジ郡山」を卒業し、「まこと」で働く利用者たち。同法人の運営する「ウェルフェアカフェ」で、盛り付けや配膳、掃除の業務を担当しています。「いろいろな仕事ができるのが、すごく楽しい」と話します

取材協力
特定非営利活動法人「真・善・美」
郡山市緑町7-9
TEL 024-983-3977
http://sin-zen-bi.or.jp/

障がいのある若者が学ぶ県内初の福祉型専攻科

「カレッジ郡山」は、障がい者が特別支援学校高等部を卒業した後に、本人が入学を希望すれば2年間教養や社会性などを学ぶプログラムを受けられる取組みです。福祉型専攻科※として、2018年に県内で初めて開設されました。通っているのは、知的障がいや精神障がいを持つ方たち。就職や福祉的就労というこれまでの進路に加えて、福祉型専攻科という新たな選択肢が注目を集めています。

カレッジ郡山を運営しているのは、特定非営利活動法人「真・善・美（しんぜんび）」。理事長の田中修司（たなかしゅうじ）さんは、お子さんが障がいを持って生まれたことがきっかけで、同じ境遇の家族や支援者とつながり、カレッジ郡山を立ち上げたといいます。

カレッジ郡山のプログラムは「生きる力を身につけること」を目標としています。そのため、国語・算数などの教科学習のほかに、ウォーキングや調理実習・就労体験・交通機関の利用・パソコン・漫画・音楽などの多種多様な特別授業が学べます。

田中さんは「生徒たちはみんな、それぞれ特徴があります。だから一方的なカリキュラムにならないよう、それぞれのやりたいことを尊重しています。生徒の生活に寄り添うことで、新しく始めた授業もあります。今後も一人ひとりが、もっと能力を生かせるよう、個性をのばすプログラムを作っていきたい」と話します。

◀カレッジ郡山の授業の様子。生徒たちは9時に通所して、午前・午後の講義を受け、15時に帰宅します。現在の生徒数は4名。これまでに約30名が卒業しました

※ 障害者総合支援法自立訓練（生活訓練）に基づくプログラム

赤い羽根でささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会
〒960-8141福島市渡利字七社宮111（福島県総合社会福祉センター内）
TEL(024)522-0822 FAX(024)528-1234
メールアドレス　akaihane@axel.ocn.ne.jp
ホームページ　https://akaihane-fukushima.or.jp/

赤い羽根共同募金配分交付式が行われました

4月27日、福島県総合社会福祉センターにおいて、赤い羽根共同募金の配分交付式が行われ、福祉施設や団体、社会福祉協議会などの皆様にご参加いただきました。配分金の原資には令和3年度共同募金運動の募金が役立てられています。今回は、交付式で述べられた寄付者の皆様への感謝のメッセージをご紹介します。

郡山市

社会福祉法人郡山清和救護園
養護老人ホーム希望ヶ丘ホーム
助成事業名：トイレ改修事業

「すべての人が安心して生活でき、毎日を心豊かで健康に、そして自分らしく」を実現

この度は、配分金の交付決定をいただきまして、誠にありがとうございます。また、地域の皆様の特段のご理解とご支援を賜りまして今日に至っておりますことに、心から感謝申し上げます。

私ども「養護老人ホーム希望ヶ丘ホーム」は、平成20年4月に福島県より移譲いただきまして、社会福祉法人郡山清和救護園が経営をさせていただいております。「すべての人が安心して生活でき、毎日を心豊かで健康に、そして自分らしく過ごす」をテーマに、ご利用者の皆さん本位のサービスの提供と、信頼される施設づくりを目指し、施設運営及び福祉サービスの提供に努めているところです。

今回、トイレの改修事業の申請をお願いさせていただいたところ、配分金交付決定の通知をいただき、職員一同、嬉しさと感謝の気持ちでいっぱいでございます。このたびの配分金にてトイレ改修工事をさせていただくことにより、床面の段差もなくなり、明るく清潔感あふれるトイレを、ご高齢のご利用者の皆さん方に安心してお使いいただけるものと喜んでおります。

結びに、赤い羽根共同募金運動にご協力いただきました県民の皆様方の温かい思いやりと尊い善意に、心より深く感謝申し上げまして御礼の言葉とさせていただきます。

▲配分交付式にて

※ 写真撮影時のみマスクを外しております。

「真・善・美」では、学びの場と働く場を並行して運営することで、障がいを持つ若者が自分らしく生きるためのサポートをしています

▲理事長の田中修司さん。子どもたちが学ぶ姿を通じて、ご自身や職員の方々も一緒に成長していると感じるそうです

学びや経験を活かして地域で生き生きと働く

カレッジ郡山の卒業生の多くは、同じ法人内の就労継続支援B型事業所「まこと」で働いています。「まこと」は、「学んだことを活かし、経験を積める勤務先」として、2019年に設立しました。

仕事内容は、地域の高齢者への宅配サービスや、同法人が経営する農地で米・野菜を収穫し、カフェや焼き芋屋で提供するなどです。最近では、ひとり親世帯や高齢者世帯を支援するフードバンクも始めました。「障がいのある人たちは、チャンスがあれば、いくらでも伸びます。ですからどんどん仕事を作って、様々な経験をしてもらっています」と、田中さん。

「まこと」の利用者たちは、仕事を通じて、地域の人たちから「ありがとう」と言われることがうれしく、そのことが自己肯定感の向上につながっているとのこと。仕事を続けることにより、自分に自信を持てるようになるそうです。「仕事で得た様々な経験が社会では生き抜く力となるので、もっと学びと働きを充実していきます」と田中さんは語ります。

今後、「真・善・美」では、障がい者の教育・就労支援にとどまらず、親亡き後にも安心して生きていけるようグループホーム（共同生活援助施設）の設立も目指しています。「地域から信頼される施設で障がい者の幸せを考えていきたい」と、さらなる計画を抱いています。

発行・企画編集　社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
TEL(024)523-1251　FAX(024)523-4477
https://www.fukushimakenshakyo.or.jp
E-mail　heartful@fukushimakenshakyo.or.jp

県社協からのお知らせ

令和4年度 第1回 福祉の職場WEB説明会 及び合同就職説明会、就職支援セミナーのご案内

福祉のしごとに興味がある方、まずはオンライン上で、つぎに会場にお越しください！お待ちしています！

1.WEB説明会

下記サイト上に、参加法人紹介ページを設け、施設情報・PR動画、現在有効な求人情報等を掲載します。

○ 期間

令和4年7月1日（金）～7月31日（日）

○ 参加法人数

県内で社会福祉施設・事業所を運営している73法人（予定）

2.合同就職説明会

3.就職支援セミナー

介護・福祉業界の未来について

～「カイゴのシゴト」のトレンドを確認し
これからを考える「ヒント」をつかむ
～合同就職説明会のおススメの過ごし方をまなぶ

○講師

株式会社リクルート HELPMAN　JAPANグループ
坂本宗庸（さかもとむねつね） 氏

○開催日時・会場（※合同就職説明会と同時開催）

① 福島会場：福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ
令和4年7月6日（水）15：30～16：15

② 郡山会場：ビッグパレットふくしま
令和4年7月9日（土）12：30～13：15

福島県福祉人材センター
ホームページ

申込み・問合せ先

県社協 人材研修課 福祉人材センター
TEL024-521-5662
https://f-fjc.com

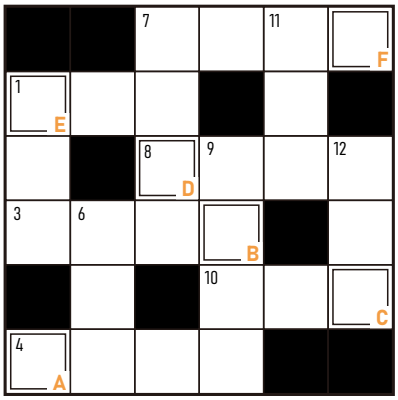
クロスワードにチャレンジ！

ヨコのカギ

1. 巻きスカートのようなタヒチの民族衣装
3. 大きなへびのこと
4. 刃物の切れぐあい。また、人のうでまえの鋭さ
7. 安らぎを与えてくれる場所や状態
「砂漠の○○○○」
8. 人や動物が歩いたあとに残る足型のこと
10. うすい百貨店の○○○駅は郡山駅です

タテのカギ

1. 白と黒。笹が大好物
6. 「何れ」←読めますか？
7. 味が単純で風味がないこと。おおまかな味
9. ご飯をよそう道具
11. ⇔ジュニア
12. 宮崎駿監督の最高傑作アニメ「○○○のトトロ」



全部できたら二重ワクの6文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。

正解者から抽選で3名にプレゼントが当たる

今月のプレゼント
梁川ふれ愛ガーデン
（伊達市・就労継続支援B型）
オートミールクッキー&だっこくまクッキーセット
当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

応募方法　ハガキまたはEメールにパズルの答えと ①住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。

締　切　令和4年7月14日（木）

宛　先　〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
「はあとふる・ふくしまパズル係」

メールでのご応募はこちら！

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。

A	B	C	D	E	F

4・5月号の正解
連携の輪（レンケイノワ）

多数のご応募ありがとうございました

編集後記

取材した保育の現場では、働きやすい職場づくりに取り組んでいることで、お子さんたちがより良い環境でのびのびと過ごしていることが感じられ、穏やかな気持ちになりました。働くうえで大切にしていることは、みなさん様々かと思いますが、その人らしく働ける職場が増えてほしいと思います。

（人材研修課　笠井理紗子（かさいりさこ））

3月号への読者のおたより

特集「社協間連携」拝読させて頂き、「なるほど」と感心させられました。都市部でなく、地方の町村では、単独での活動が中心になりやすいですが、いろいろな場面での連携が効果的と感じました。（80歳）

地域には「社協」がなくてはならない存在です！！たて、よこの関係がさらに重要になってくると感じています。（66歳　自営業）

いつも拝見させて頂いております。多様な話題にいつも驚きや発見、気づきを頂いております。福祉の現場が閉ざされることなくオープンで風通しよく、笑顔の和が広まりますように。これからも情報提供よろしくお願いします。（48歳　主任児童委員）

※本誌に掲載の記事・写真・イラストの無断転載・複製を禁じます。
発行日／令和4年6月15日
制作・印刷／（株）民報印刷